

令和5年度
「ほっかいどう遺産WAON」
助成活動報告



AEON

2024年6月10日
NPO法人北海道遺産協議会

令和5年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計22件800万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	しかべ間歇泉	鹿部町	鹿部町	間歇泉立ち入り規制柵改修	500,000
2	しもかわの循環型森林文化	下川町	下川町	北海道遺産「しもかわの循環型森林文化」普及啓発事業	500,000
3	仙台藩白老元陣屋	白老町	白老町	北海道遺産仙台藩白老元陣屋魅力向上事業	500,000
4	空知の炭鉱関連施設と生活文化、小樽みなとと防波堤、小樽の鉄道遺産、北海道の集治監	空知地域、小樽市、月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市	炭鉄港推進協議会	日本遺産「炭鉄港」構成文化財に係る共通サインの制作	500,000
5	北海道の集治監	月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市	月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市	北海道遺産「北海道集治監」のPR活動	500,000
6	天塩川、松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	流域市町村	音威子府村若手まちづくりグループ nociw *	天塩川流域資源連携魅力化プロジェクト	500,000
7	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群、オホーツク沿岸の古代遺跡群	函館市、伊達市など	北の縄文道民会議	縄文世界遺産と2つの国宝の魅力発信事業	480,000
8	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム	世界文化遺産登録の内浦湾縄文遺跡群の「海からの視線」による広域的観光の地域振興活用の方策・提案	450,000
9	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	縄文DOHNAN プロジェクト	ご当地カッキー第3弾「縄文を通じて地域を知る！縄文かるた」の作成	450,000
10	函館西部地区の街並み	函館市	函館湾岸コンクリート物語普及委員会	木田建築の価値を市民に～函館湾岸コンクリート物語 建造物編	450,000
11	旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群	上士幌町	ひがし大雪アーチ橋友の会	上士幌町鉄道資料館敷地にエゾヤマザクラ植樹事業	400,000
12	積丹半島と神威岬	積丹町	積丹町	積丹岬遊歩道安全対策事業	400,000
13	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	「道外禁止!」鉄道プロジェクト実行委員会	「空知地方の産炭地を結んだ鉄道の記憶」リーフレットの作成	300,000
14	空知の炭鉱関連施設と生活文化	美唄市	一般社団法人ステイびばい	北海道遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」を活用した滞在コンテンツづくり	300,000
15	サケの文化	石狩市	一般社団法人石狩シェアパシシティ計画	北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト	300,000
16	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	帰ってきた雪合戦！第35回昭和新山国際雪合戦大会事業	300,000
17	野付半島と打瀬舟	別海町	野付半島自然環境保全協会	野付半島の希少な鳥類(天然記念物等)についての展示パネルの作成	300,000
18	小樽の鉄道遺産	小樽市	NPO法人北海道鉄道文化保存会	北海道・トロッコ大集合	250,000
19	スキーとニセコ連峰、アイヌ語地名	ニセコ地域	ニセコ発酵ツーリズム推進協議会	北海道遺産「スキーとニセコ連峰」魅力発信事業～ニセコ発酵体験プログラムの造成～	250,000
20	天塩川	流域市町村	士別市	天塩岳避難小屋トイレ外壁修繕	170,000
21	大友亀太郎の事績と大友堀遺構	札幌市	札幌村郷土記念館保存会	大友亀太郎の実績を伝える新パネルの制作	150,000
22	ピアソン記念館	北見市	特定非営利活動法人ピアソン会	ピアソン記念館オリジナルエコバッグ(英語版)	50,000

1. 間歇泉立ち入り規制柵改修

- 実施主体 : 鹿部町
- 実施団体URL : <https://www.town.shikabe.lg.jp/index.html> (鹿部町HP)
- 助成額 : 500,000円

—活動内容—

- しかべ間歇泉公園内にある間歇泉周辺の立ち入り規制柵が経年劣化により腐食し危険な状態であることからの改修。改修前は木製の支柱であったが、令和2年度に同助成金を活用し「北海道遺産標識支柱」を擬木にて設置していることから、耐久性を考慮し、同素材での擬木にて改修を行った。

▶ 着工前



遺産の名称：
「しかべ間歇泉」（鹿部町）



「しかべ間歇泉」は、大正13（1924）年、温泉の掘削中に偶然発見された。この資源を活用した地域の温泉旅館は、海の恵みを楽しみつつ湯治できる場として栄え、今日の“海と温泉のまち”を築いた。町内30か所以上の泉源のなかでも、103度の高温の温泉が10分から15分間隔で約500ℓ、高さ約15mまで噴き上がる特徴があり、全国に複数ある間歇泉のなかでも、発見されてからこれまで、衰退することなく一定の噴出間隔と温泉量を噴き上げている。代々、地域住民の手により大切に守り継いできた“地域の宝”は、鹿部の大地を潤し続ける。

2. 北海道遺産「しもかわの循環型森林文化」普及啓発事業

- 実施主体 : 下川町
- 実施団体URL : <https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/> (下川町HP)
- 助成額 : 500,000円

—活動内容—

- 北海道遺産「しもかわの循環型森林文化」を次世代に着実に残していくことを目的に、下川町と関りがある横浜市戸塚区と連携し、「戸塚ふれあい区民祭り」に参加した。
- 「しもかわの循環型森林文化」の取組紹介とともに、下川町産材を活用した木工体験を通じて、木に触れ合う機会の少ない都市部の子どもたちに木に触れ合う機会の創出に繋がった。当初予定していた椅子から、参加しやすいペーパーナイフ製作に変更したことで、多くの親子連れに参加いただいた。



遺産の名称：
「しもかわの循環型森林文化」（下川町）



「経済・社会・環境」の調和による持続的な地域づくりを目指すため、基盤となる森林を活かすための理念である法正林思想により「循環型森林(もり)づくり」を行っている。現在、年間50haの伐採、植林、育林の適正な森林管理を60年間サイクルで継続している。この仕組みで、「雇用の場の確保」、「安定的な木材供給」、さらに「木質エネルギー創出」、「森林のメカニズムによる脱炭素」を可能とし、SDGsの目標である『誰一人取り残されない幸せな日本一の町』を創るために、「循環型森林文化創造」を実践するものである。

3. 北海道遺産仙台藩白老元陣屋魅力向上事業

- 実施主体 : 白老町
- 実施団体URL : <https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/> (白老町HP)
- 助成額 : 500,000円

—活動内容—

- 北海道遺産への選定を記念し、全国の博物館施設などに収蔵されている「仙台藩白老元陣屋の絵図面26点」を一堂に集め特別展を開催した。絵図面は描かれた時代や背景、その目的、作者などによりその技法や記載内容が異なっている。それぞれの絵図面の比較を通じて仙台藩白老元陣屋の果たした役割を検証するとともに、幕末の蝦夷地に陣屋を築き北の防人として重責を果たした仙台藩士たちへの新たな理解を図った。
- 仙台藩白老元陣屋でのイベントやガイド活動に必要な備品を導入し来館者の深い学びを促進した。



遺産の名称：
「仙台藩白老元陣屋」
(白老町)



江戸幕府は、嘉永6(1853)年の黒船来航により鎖国政策を断念して、下田と箱館を開港した。同時に、西欧諸国の日本進出を警戒して、東北地方の各藩に蝦夷地警備を命じた。白老元陣屋は、安政3(1858)年に仙台藩が構築し、慶応4(1868)年の戊辰戦争により撤退するまで12年間存続した。陣屋遺構には、土塁、掘割の重要遺構のほか、藩士たちが故郷から移植した赤松による歴史的景観などが比較的良好に残されている。また、当時勧請した愛宕神社や塩釜神社、御霊を祀る藩士墓地では、地域住民が1世紀以上に渡り、例大祭や供養祭を挙行している。



4. 日本遺産「炭鉄港」構成文化財に係る共通サインの制作

- 実施主体：炭鉄港推進協議会
- 実施団体URL：<https://3city.net/>（炭鉄港推進協議会HP）
- 助成額：500,000円

一活動内容一

- 北海道遺産である、「空知の炭鉱関連施設と生活文化」、「小樽みなとと防波堤」、「小樽の鉄道遺産」「北海道の集治監（樺戸、空知、釧路、網走、十勝）」を含む、日本遺産「炭鉄港」の普及啓発を行うため、道内各地の「炭鉄港」構成文化財において、その文化財に係る歴史等をわかりやすく説明するための「共通サイン」を制作した。
- 共通サインには、廃線となったバス路線のバス停を活用した。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

5. 北海道遺産「北海道集治監」のPR活動

■ 実施主体 : 月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市

■ 実施団体URL : <http://www.town.tsukigata.hokkaido.jp/> (月形町)

<https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/> (三笠市) <https://hokkaido.shibecha.jp/> (標茶町)

<https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/> (網走市) <https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/> (帯広市)

■ 助成額 : 500,000円

—活動内容—

- 明治から北海道には5つの集治監（現在で言う刑務所）が設置され、未開拓であった北海道内陸部の道路開削や屯田兵屋建築、エネルギー政策のための石炭採掘、硫黄採掘など北海道開拓の礎を築いてきた功績は、まだまだ知られていない。この歴史を伝えるために、5監が設置されていた地域担当者が、札幌市の地下歩行空間でPR活動を行った。
- それぞれの地域紹介や北海道遺産の概要を記したパネル展示、月形刑務所の作業製品である缶バッチ（PRグッズ）やチラシを使って、各地域担当者でなければ聞けない話などを紹介しながら配布を行った。のぼりに合わせてジャンパーを制作するなど白を基調として統一感を出して雰囲気づくりをし、通行中の多くのお客様の来場に繋がった。



遺産の名称 :

「北海道の集治監」(月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市)



北海道は北方にある地理性から、集治監（国立刑務所）の設置が集中した。建設は樺戸（現月形町、1881年）、空知（三笠市、1882年）、釧路（標茶町、1885年）、網走（1891年）、十勝（帯広市、1893年）の順であった。目的は初期の西南戦争政治犯収容、後期に重大犯罪人隔離で、北辺防衛と北海道開拓用の北見と上川道路・鉄道建設（樺戸、空知、網走）、幌内炭鉱開発（空知）、硫黄鉱山開発（釧路）、農地開発（帯広）等で、北海道の初期インフラ整備と地方文化形成をになった。

6. 天塩川流域資源連携魅力化プロジェクト

- 実施主体：音威子府村若手まちづくりグループnociw*
- 実施団体URL：<https://nociw.localinfo.jp/>
(音威子府村若手まちづくりグループnociw*HP)
- 助成額：500,000円

—活動内容—

- 札幌文化芸術交流センター（札幌市）で開催された「鉄道文化博覧会」に出展参加し、自主試作した「天塩川」パンフレットの配布や北海道遺産パンフレットの配布を実施。全道各地での鉄道資源の利活用に取り組む住民団体や観光協会・自治体等が出展しており、多数の北海道遺産PRも協働し行われ、より効果的な魅力発信を行うことができた。
- 北海道遺産でもある「松浦武四郎」の出身地・三重県松阪市の松浦武四郎記念館との連携を図り、「第29回武四郎まつり」への出展を行った。各種パンフレット配布のほか、中流域3市町村の特産品販売、天塩川をはじめとした流域資源や北海道遺産に関連するパネル展示・ノベルティ配布を実施。イベント開催日は悪天候であったものの多くの地域住民が来場。質問や相談等も多く寄せられ、天塩川や北海道遺産等に対する関心度も非常に高く、流域特産品販売も完売するほど盛況であった。
- 三重県松阪市（武四郎記念館）との連携は、さまざまな事情で縮小傾向にあったが、今回の連携試行により情報共有を実施し、継続可能な形での相互交流を模索する方向での意見交換を行うことができた。



遺産の名称：
「天塩川」
（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができるとも知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポイントから大河を下っていく。

7. 縄文世界遺産と2つの国宝の魅力発信事業

- 実施主体 : 北の縄文道民会議
- 実施団体URL : <https://www.jomon-do.org/> (北の縄文道民会議HP)
- 助成額 : 480,000円

—活動内容—

- 北海道の縄文遺跡めぐり動画の作成・発信事業
毎年7月に開催される「カルチャーナイト」において、世界遺産となった北海道の遺産巡りの魅力を紹介する動画を制作・配信し、コロナ禍後の遺跡への誘客と縄文盛り上げにつなげた。
- 縄文雪まつり2024～縄文LOVE大集合
世界遺産登録2周年と、2023年6月に道内2番目の国宝指定となった遠軽町の「白滝遺跡群出土品」を記念誌、さっぽろ雪まつり時期の子・カ・ホで、縄文をテーマに活動するみなさんや、地域の学芸員、専門家の方々とともに「縄文雪まつり2024」を実施。雪まつりに訪れる世界の方々をはじめ道内外の多くの方々に北海道遺産である「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」「オホーツク沿岸の古代遺跡群」を紹介。また、縄文にかかわる様々な分野の方々が一堂に集結することにより、繋がりや新たな連携が生まれた。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」
(函館市、伊達市など)



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

8. 世界文化遺産登録の内浦湾縄文遺跡群の「海からの視線」による広域的観光の地域振興活用の方策・提案

■ 実施主体：伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム

■ 助成額：450,000円

一活動内容一

- 9月22日に内浦湾洋上研修（船上外）を実施。船上からの羊蹄山を大きさを体感。



- 3月21日に室蘭開発建設部会議室からのオンライン報告会を実施。



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」

（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91カ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

9.ご当地カッター第3弾 「縄文を通じて地域を知る！縄文かるた」の作成

- 実施主体：縄文DOHNAN プロジェクト
- 実施団体URL：<https://jomon-dohnan.com/>
(縄文DOHNANプロジェクトHP)
- 助成額：450,000円

ー活動内容ー

- 道南の子供たちが縄文を通じてまちを知り郷土愛が育まれていくことを願い、“どうなん縄文かるた”を制作。子供たち視点の縄文を探るため、小学生を対象にしたイベントのアイデアソンを開催し、各まちの子供達や一般募集をかけたところ、総勢530名630通の読み句が届きその中のアイデアや想いを汲み取りかるたを制作し、渡島・檜山の小学校や学童等へ450セット配布した。
- かるたのお披露目会と共に行った読み句採用者へ向けた表彰式には、各町から10名の子供達が集まり、ご当地ヒーローイカダベッサもプレゼンターとして登場し終日イベントを盛り上げた。かるた大会はイベントの中で十数回行い、毎度熱戦が繰り広げられ、子どもだけでなく大人からも大好評だった。後日、かるたは函館市教育長へ直接寄贈し、読み句並びにイラスト共に高い評価を得た。教育長へは小学校の授業の中での活用を要望し、各まちからはまち選抜のチームが競うかるた大会開催へ向けての要望があった。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化
遺跡群」
(函館市、伊達市など)



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

- 実施主体 : 函館湾岸コンクリート物語普及委員会
- 実施団体URL : <http://grhabip.jp/>
(函館湾岸価値創造プロジェクト [GRHABIP] HP)
- 助成額 : 450,000円

—活動内容—

- 函館のコンクリート建築の先駆者である木田保造の功績と現存する建築物をまとめたパンフレットとクリアファイルを作成した。
- 函館西部地区の街並みについて、パンフレットをもとに講師が解説しながら、コンクリート建築を主に11の建造物をめぐるまち歩きと、講演と参加者との対話を交えながらのサロンを開催した。



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
(函館市)



函館は1859（安政6）年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並び。

11. 上士幌町鉄道資料館敷地にエゾヤマザクラ植樹事業

- 実施主体 : ひがし大雪アーチ橋友の会
- 実施団体URL : <https://arch-bridge.sakura.ne.jp/>
(ひがし大雪アーチ橋友の会HP)
- 助成額 : 400,000円

—活動内容—

- 当会は上士幌町鉄道資料館の土幌線跡で長年に渡って、鉄道遺産の再現を図るべく各種団体の支援を受け、全長700mの線路の再敷設、信号機やトロッキの設置、桜や紅葉の植樹、草刈りなどを行ってきた。自然と調和した鉄道遺産の景観は町内外の人々を魅了するものに育ってきている。植樹したエゾヤマザクラは大きく育ち、春には見事な花を咲かすまでになったが、中には枯れるものがあり、景観の一体性を確保するために枯れた木の補植を行う必要があると判断した。
- 令和5年9月に枯れた桜5本の植え替えを行い、助成事業である旨を記載した看板を設置した。



▲ 植え替え後

遺産の名称：
「旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群」
(上士幌町)



昭和初期に十勝内陸の森林資源の運搬を目的に建設された第1級の鉄道遺産。地元住民を中心とした活動で保存が実現された。中でも季節によって見え隠れする「タウシュベツ川橋梁」、32mの大アーチを持つ「第三音更川橋梁」が有名。地元NPOの保存・利活用へ向けての活発な活動は全国的にも市民活動のモデルとされている。

12. 積丹岬遊歩道安全対策事業

- 実施主体 : 積丹町
- 実施団体URL : <https://www.town.shakotan.lg.jp/> (積丹町HP)
- 助成額 : 400,000円

—活動内容—

- 日本の渚百選に選定された島武意海岸を含む同遊歩道は、貴重な自然環境を体験するとともに旧ニシン場の遺構としての番屋跡など、産業の古い記録をたどる探勝路として多くの観光客が散策しているが、厳しい風雪の中で経年劣化した展望台等の改修が急務であるとともに、熊出没情報が寄せられていたことから、改修と併せて害獣忌避機材を設置して観光客の方々に安心・安全に利用いただけるよう取り組んだ。



遺産の名称：
「積丹半島と神威岬」
(積丹町)



積丹半島開発の歴史は古く、ニシン漁の旧大漁場として発達しました。切り立った断崖とシャコタンブルーと形容される神威岬の海岸美は絶景。貴重な自然と産業の古い歴史に加え、明治から昭和初期に栄えた旧ニシン場の遺構として番屋、揚場跡、袋澗、トンネル、旧街道などが保存されている。神威岬の全面禁煙など景観を保護する活動も始まっている。

13. 「空知地方の産炭地を結んだ鉄路の記憶」リーフレットの作成

- 実施主体：「道外禁止!？」鉄道プロジェクト実行委員会
- 実施団体URL：<https://seki6000.com/>
(「道外禁止!？」鉄道プロジェクト実行委員会HP)
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

- 北海道遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」において、石炭輸送を担った鉄路の多くは廃止され、その年月の経過とともに人々の記憶から失われつつある。そのため、記憶と遺構等の伝承並びに、周遊を促すツールとすることを目的として、当該遺産の痕跡を地図と写真で紹介するA5判12頁構成のリーフレットを10,000部作成した。
- 配布先：空知管内各市町および安平町内の道の駅、観光協会、観光施設、炭鉄港関連施設。
- その他：各市町の教育委員会を通じて学校での郷土史学習授業での配布にも対応。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

14. 北海道遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」を活用した滞在コンテンツづくり

- 実施主体：一般社団法人ステイびばい
- 実施団体URL：<https://staybibai.jp/>（一般社団法人ステイびばいHP）
- 助成額：300,000円

—活動内容—

- インバウンド観光の取り組みに向けて、市内における食農体験ツアーやアートなどの滞在コンテンツとつなぎ合わせたツアー、特にFITに向けて提案をするため、炭鉱関連施設におけるガイドがない遺産に英語表記による看板を設置し、個人で訪問しても遺産の内容がわかるようにし、より充実した滞在コンテンツとなるよう造成した。
- インバウンドも含め、クレジット等に対応したキャッシュレス化により、炭鉱関連遺産への誘客環境を整備した。
- インバウンドのFIT旅行に対応した、炭鉱関連施設に特化した英語表記パンフレットを作成し、旅前における資料または市内ツアーにおける案内時にわかりやすい地図等も掲載した炭鉱関連遺産を説明する資料を作成した。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

15. 北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト

- 実施主体：一般社団法人石狩シェアハピシティ計画
- 実施団体URL：<https://www.ishikarishc.com/>
(一般社団法人石狩シェアハピシティ計画HP)

■ 助成額：300,000円

ー活動内容ー

- 「サケの文化」にまつわる石狩市発祥の郷土料理「石狩鍋」を手軽に食べられるよう、昨年度事業で三笠高校調理部と共同で開発したアレンジ石狩鍋「石狩シャケナベイバー」の鍋スープ試作品を開発するとともに、各種石狩鍋のプロモーション活動の実施により「サケの文化」の魅力発信を行った。

- 2023. 10 イオン発寒店における北海道遺産PRステージイベントへの登壇
- 2023. 10 石狩鍋聖地巡礼ツアーの催行
- 2023. 11 北国郷土鍋フェア2023の開催
- 2023. 11 北国鍋フェス2023の開催
- 2024. 2 2023年度新商品発表会（ノーステック財団主催）における「石狩シャケナベイバー」PR（試食提供実施）
- 2024. 2 小樽商科大学緑丘会における「石狩シャケナベイバー」PR（試飲提供実施）
- 2024. 3 無印良品札幌パルコ店「つながる市」における「石狩シャケナベイバー」PR（試飲提供実施）



遺産の名称：
「サケの文化」
(北海道各地)



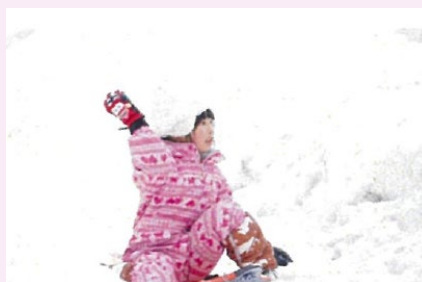
サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、2009（平成21）年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

16. 帰ってきた雪合戦！第35回昭和新山国際雪合戦大会事業

- 実施主体 : 昭和新山国際雪合戦実行委員会
- 実施団体URL : <https://www.yukigassen.jp/>
(昭和新山国際雪合戦実行委員会HP)
- 助成額 : 300,000円

一活動内容一

- 令和6年2月に行われ、熱い熱戦が繰り広げられた「第35回昭和新山国際雪合戦大会」にて、今大会から「スノーパーク」を復活させ、飲食ブースやスライディングシュート（そり滑り）コーナーを設置し、選手以外の老若男女が楽しめるイベントを実施。来場者からは非常に好評であり、来年以降も継続して実施する予定。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦大会」（壮瞥町）



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

17. 野付半島の希少な鳥類(天然記念物等)についての展示パネルの作成

- 実施主体：野付半島自然環境保全協会
- 実施団体URL：<https://notsuke.jp/>(野付半島ネイチャーセンターHP)
- 助成額：300,000円

—活動内容—

- 野付半島は特別天然記念物のタンチョウ、天然記念物のオジロワシなどの貴重な鳥類の繁殖地・生息地になっており、野付半島の自然環境への理解を来館者に深めるため、展示パネルを作成した。
- 既存のパネルを活用し、野付半島が出来上がるメカニズムや地質的な情報を説明した「半島のなりたち」と、野付半島が地殻変動によってどのように変化してきて、今後どのようになるのかを説明した「野付半島の遷り変わり」の2枚を作成。
- また、野付に生息している天然記念物や環境省のレッドリストに記載されている絶滅危惧種を取り上げて紹介した「野付の貴重な生き物」パネルを新たに作成。野付半島で繁殖している天然記念物のオジロワシの営巣の様子を6分の1のスケールで模型を作成して展示した。



遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

- 実施主体：NPO法人北海道鉄道文化保存会
- 実施団体URL：<http://www.tetsudo.in/>
(NPO法人北海道鉄道文化保存会HP)
- 助成額：250,000円

一活動内容一

- 「第46回全国町並みゼミ小樽大会」と共催し、北海道各地で廃線を活用して「トロッコ運行」している4団体が小樽に集まり「トロッコ大集合」と銘打って、旧国鉄手宮線でトロッコに乗車するイベントを開催。開催期間は好天に恵まれ、それぞれ個性あるトロッコに乗り継いで約500人の方に乗車していただいた。



遺産の名称：
「小樽の鉄道遺産」
(小樽市)



明治13年11月28日、小樽手宮一札幌間に、アメリカ人技師クロフォードの指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港一鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の発展を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。

19. 北海道遺産「スキーとニセコ連峰」魅力発信事業 ～ニセコ発酵体験プログラムの造成～

- 実施主体：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会
- 実施団体URL：<https://nisekohakko.com/>
(ニセコ発酵ツーリズム推進協議会HP)
- 助成額：320,000円

一活動内容一

- 「普段は見られない発酵の裏側を発酵家自らが案内して巡る特別なツアー」をテーマに、令和5年11月に「SHIKOMI TRIAL TOUR」を実施。参加者はニセコエリアの住民だけでなく、他都市からも参加いただいた。当日は「HAKKO GINGER」「ニセコチーズ工房」「ニセ古酒造」を順に巡りながら、試飲試食などと共に、発酵家自ら商品開発など発酵にまつわる奥深いストーリーを共有し、工房見学なども楽しんだ。参加者のアンケート結果や受け入れ側の協議会会員からのヒアリングなどは、今後の持続可能なツアー体制構築に資するものとなった。




SHIKOMI TRIAL TOUR 2023.11.18 SAT

発酵のおもしろさを心に“仕込む”音聲は見せられない裏側をご覧ください。

参加無料

1. 日 程：2023年11月18日(土)
2. 募集人員：7名(最少参加人員：2名)
3. 申込締め：2023年11月16日(日)
4. 申込締切：2023年11月16日(土)
5. 食事条件：なし
6. 注意事項：
 - 行経路に記憶された特別見学代(3箇所)、貸切車両代、保険代、以外の諸経費は各自で負担ください。

力：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会

協賛：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会
実行団体：株式会社ニセコ観光

お問い合わせ：info@nisekohakko.com
参加費含む・車費・運送料を記入の上、メールにてお申込みください。

協賛：HAKKO GINGER

協賛：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会

協賛：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会

協賛：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会

遺産の名称：
「スキーとニセコ連峰」
(ニセコ地域)



厳しい寒さや雪に閉ざされる北海道の人々にとって、冬期間の最大の娯楽はスキー遊びだった。昭和40年代頃からは「冬のレジャー」と言われるようになり、スキー場の代表格が昭和初期から知名度の高かったニセコ連峰。娯楽が多様化した今日、ウィンタースポーツだけではなく、四季を通じての新しいアウトドアスポーツの拠点となっている。

20. 天塩岳避難小屋トイレ外壁修繕

- 実施主体 : 士別市
- 実施団体URL : <https://www.city.shibetsu.lg.jp/index.html> (士別市HP)
- 助成額 : 170,000円

—活動内容—

- 天塩岳避難小屋トイレは、登山者の休憩場所や急な悪天候時の緊急避難場所として多くの登山者に利用されているが、昭和63年に建設された施設であり、30年以上が経過し老朽化が進んでいることから、損傷が著しい南西部外壁の修繕を行った。
- 外壁と軒下に防風防湿シートを貼り付けし、サイディング材による補修を行った。



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができるとも知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポイントから大河を下っていく。

22.ピアソン記念館オリジナルエコバッグ(英語版)

- 実施主体 : 特定非営利活動法人 ピアソン会
- 実施団体URL : <http://www.npo-pierson.org/>
(特定非営利活動法人 ピアソン会HP)
- 助成額 : 50,000円

一活動内容一

- 会員からの強い希望で、ピアソン記念館のオリジナルエコバッグ(日本語版で大きさは丁度本屋書類の入る28cm×35cm×4cm)を昨年度製作し、会員・関係者へ配布したり記念品として使用したところ、非常に好評で、100袋製作が半年で在庫がなくなった。多くの人からの希望が寄せられたため、海外のお客様や若い人へ、北海道遺産(Hokkaido Heritage)北見市指定文化財(Kitami city designated cultural property)、そしてピアソン記念館(PIERSON MEMORIAL HOUSE)の知名度アップのため、今年度はもう少し大き目の英語版のエコバッグを製作した。
- また姉妹都市エリザベス市との姉妹都市提携55周年となるため、ピアソン記念館記念品としても使用する予定。



遺産の名称：
「ピアソン記念館」
(北見市)



アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として1914(大正3)年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛(現在の北見)。廃娯運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW. M. ヴォーリス。